

カメラレポート

田植えと田舎料理を楽しむ

高暮で都市と農村交流イベント

高野町の高暮自治振興区が6月8日、ふるさと村高暮前の田んぼで「田植えと懐かしの田植え料理を楽しむ会」を開催しました。

これは、都市と農村の年間交流イベント「高暮自然体験塾」の第一弾。

広島市からの家族連れや地元住民など約40人が参加。10アールの田んぼにもち米を植えました。昼食は昔ながらに畦に座り、会員が用意したむすびや山菜料理などを味わい、「お米がおいしい」と感動していました。また、ドジョウの放流やピーナッツの定植を体験しました。

都市住民は農村を満喫し、地元住民も昔懐かしい農家の営みを楽しみました。



もち米を植える子どもたち

力強いばちさばきを披露

太鼓ライブT O J O



鬼神太鼓などが迫力ある演奏

鬼神太鼓と東城町観光振興キャンペーン実行委員会が6月14日、東城町老人福祉センターで、「太鼓ライブT O J O」を開催しました。

このライブは、昨年に続き2回目の開催で、地元の「鬼神太鼓」や「ひばん婆太鼓」、口和町「口和備神太鼓」、神石高原町「やまびこ太鼓」が出演したほか、上谷町「不老仙太鼓」と福山市「鬼炎太鼓」がゲストとして出演し、各団体がそろいの衣装に身を包み、勇壮で力強いばちさばきを披露しました。

また、ピアノやバイオリン、尺八と太鼓のセッションもあり、新たに響く美しい音色に、子どもからお年寄りまで約300人の観客が酔いしれました。

郷土資料館でバイオリンの響き

口和ふれあいの丘コンサート

口和郷土資料館が6月7日、「ふれあいの丘コンサート」を開催しました。

このコンサートは、上野眞樹さんのバイオリンと吉野妙さんのピアノによるジョイントコンサート。上野さんは25年間ドイツ各地のオーケストラのコンサートマスターを勤めた経歴の持ち主。ヴィヴァルディの「夏」やバッハの「G線上のアリア」のほか、各世代で流行した曲を演奏し、会場に詰めかけた多くの来場者は息のぴったり合った音色にうっとり聴き惚れていました。

また、上野さんは「バッハは日本語で小川という意味で、バッハの日本名は小川さん」などと、ユーモアたっぷりのトークを展開。休憩時間には、飲み物やお菓子を口にするアットホームな雰囲気の中、クラシックの音色を楽しみました。



息の合った演奏を繰り広げる

登山シーズンの幕開けを祝う

市内各地で山開き

夏山シーズンの到来を告げる山開きが市内各地で行われ、登山愛好家らでにぎわいました。

6月1日に行われた吾妻山山開きでは、夏山登山の安全を祈願する神事後、県民謡「ばい流し」や「吾妻太鼓」、「比婆荒神神楽」が行われました。比婆牛モモ肉の丸焼きや特産品のバザーなども設けられ、多くの人が地元の味を楽しみました。

登山客らは山々のパノラマに触れ、「すがすがしく気持ちがいい。自然の美しさを実感できた」と笑顔で話していました。

また、比婆山や道後山でも山開きが行われ、多くの観光客が雄大な自然を満喫しました。



吾妻山山開きで「ばい流し」を披露



比婆山山開きの神楽

プロから絵本づくりを学ぶ

峰田小が夢配達人プロジェクト

峰田小学校が5月27日、夢配達人プロジェクト事業で絵本づくりを学びました。

このプロジェクトは、(社)県青少年育成広島県民会議が青少年の夢や目標を育む地域づくりを目指し、子どもたちの「夢」の実現を支援する事業で、1820件の応募の中から峰田小5年の五刀円さんの夢「地球温暖化の真実を知ってもらうための本を作りたい」が選ばれました。

峰田小学校では、この夢の実現にみんなで取り組もうと、この日は絵本作家・朝川照雄さんによる読み聞かせや、絵本づくりの過程を学ぶ授業を行いました。

朝川さんは、自らが作製した絵本「ゆうくんだいすき」を事例に、初稿から絵本になるまでを丁寧に説明。「自分の大切な子どもに一冊だけ絵本を作ろうと思ったことがきっかけ。絵本は原稿用紙1枚分の文章量でできるので、みんなもがんばればできる。世界に一冊だけの絵本を作ろう」と子どもたちを励ました。

次の日は、比和町のアサヒの森で環境学習を行い、子どもたちは絵本づくりの夢を膨らませていました。



読み聞かせをする朝川さん

共に汗を流し、連帯を強める

庄原市消防団夏期教養訓練

消防団員としての団体規律の確保と、士気の高揚を図ろうと、平成20年度庄原市消防団夏期教養訓練が6月8日、口和総合運動公園で開催されました。

この訓練はこれまで方面隊ごとに実施していましたが、消防団としての機動力・動員力を養うため、今回初めて合同で行われ、団長以下752人の消防団員が出動しました。団員は各個訓練に汗を流し、「右向けー右」、「敬礼」など指揮者の号令に合わせて、きびきびとした動きを身につけていました。



各個訓練に汗を流す消防団員

安全確認の習慣をつけよう

西城保育所親子交通安全教室

5月30日、西城保育所で親子交通安全教室が開催されました。

この教室は、交通ルールに親子で関心を持ち、自分で自分の身を守れるようにと、3歳以上の園児76人とその保護者が参加しました。

西城交番からの説明の後、実際に保育所周辺の道路へ出かけて、道路を歩くときの注意点や、交差点や踏切での安全確認方法を学びました。

西城交番の橋本建二巡査部長は、「日常生活の中で、安全確認を子どもに習慣づける訓練をしてほしい。道路や駐車場では子どもから目を離さないでください。6月1日から道路交通法が改正されて義務付けられた後部座席でのシートベルトの着用やチャイルドシートの着用を徹底してください」と注意を呼びかけました。



手を上げて横断歩道を渡る親子

子ども服のリサイクルを推進

口和子育て広場がリサイクルデー

「口和子育て広場」が5月22日、口和支所で開催されました。

この事業は月に1回行われ、今回は「リサイクル」をテーマに、子ども服を交換しました。

この子育て広場では、子ども服のリサイクルを推進しようと常設の箱を設け、着られなくなった子ども服を自由に持ち寄り、持ち帰ったりしていますが、この日は年2回の大きなイベント。以前、子育て広場に通っていたお母さんたちが中心となってダンボール20箱分の古着を持ち寄りしました。中には、ベビーベッドや子ども専用の体重計などもありました。

参加した親子は、「古着といっても新品同然のものも多い。子どもはすぐに大きくなるので、助かります」と、笑顔で気に入った商品を取り分けていました。



子どものサイズを確認

清流を舞台に環境教育

高野で「せせらぎ体験学習」

子どもたちに環境について学んでもらおうと、高野町の下高公民館が6月14日、県境の指谷山国有林で「せせらぎ体験学習」を開催しました。

町内の親子連れ50人が参加。この日は「川」をテーマに、川を学び・川で遊び・川を食して楽しく体験しました。



ヤマメのつかみ取り

講師から森と水が果たす自然浄化作用などを学んだ後、子どもたちはヤマメのつかみ取りに挑戦。「ぬるぬるしてつかめない」と、ずぶ濡れになりながら必死でヤマメを追いかける姿を見て、ギャラリーの保護者から歓声が上がりました。

昼食は、ヤマメの塩焼きや山菜の天ぷらを食べながら、この山にまつわる砂鉄の文化、製炭などの昔話を聞き、町の歴史や産業を学びました。

最後は「来年も続けてほしい!」と、子どもたちの大きな声が森にこだましました。

やわらかい土の感触に笑顔

比和小が田植え作業を体験

比和小学校5年生12人が5月21日、比和町の久文輝夫さん所有の田んぼで、田植え作業を体験しました。

児童たちは、素足で田んぼに入り、世話役の比和山老人クラブの会員と横一列になって、「ヒメノモチ」の苗を3〜4本ずつ丁寧に植えていました。ほとんどの児童が農家の子どもですが、手植えの経験は少なく「やわらかい土の感触が気持ちよかった」と笑顔で話していました。

順調に育てば9月中旬ごろに稲刈りをした後、もちつき会を計画しています。

本年度、5年生は「農業」をテーマにさまざまな体験学習を行い、今後は特産のソバや野菜づくりを学習する予定です。



横一列になって植える子どもたち

一年を通し、食の安全を学ぶ

久代で「食の知っ得講座」

東城町の久代公民館は本年度、毎月1回各分野から講師を迎え、食について学ぶ「食の知っ得講座」を開催しています。

第一回目となった5月28日には約30人が参加。中国四国農政局から講師を迎えて、「間違いだらけの食品安全の常識」と題し、食品安全の基本を学びました。その他、松井明法館長が「弁当・惣菜」をテーマに講演したり、調理実習でバランスの取れたお弁当を作ったりしました。

参加者は「家族の健康を気づかうものとして、日ごろの買い物などで食品表示に気をつけたい」と話していました。

今後は、地産地消、体にやさしい食事、残留農薬などについて学習する予定です。



農政局の担当者が食の安全について講演

小学生が大物賞を獲得

総領でマス釣り大会

総領町稲草の「なかつくに公園」で、6月1日、田総川漁業協同組合主催のマス釣り大会が開催されました。

多くの人に釣りを楽しんでもらおうと、「なかつくに公園」内を流れる田総川には約170kgのマスを放流。家族連れなど多くの参加者は、大物賞や大漁賞などの表彰を目指して奮闘しました。大物賞を受賞したのは、58cmのマス釣り上げた藤原雄河くん（庄原小5年）。また、151匹を釣り、大漁賞も受賞しました。

その他、公園内の親水水路では、子どもたちに川や魚に親しんでもらおうと、小学生以下の子どもを対象に、マスのつかみ取りも開催。冷たい水の中、子どもたちは歓声を上げながら魚を追いかけていました。



マスのつかみ取り



多くの人でにぎわう

異文化に触れ、国際的視野を広める

西城小で子ども国際教室



フィリピンの遊びをみんなで楽しむ

6月13日、西城小学校で、外国の方々と交流し国際的な視野を広めようと「第1回子ども国際教室」が開催されました。

講師に、フィリピン出身の山出べべさんと、アメリカ出身のジャスティン・ラドクリフさんを迎え、二人の母国の文化や生活、言葉、食べ物、遊びなどの話を聞いたり、全校児童で英語を使ったゲームをしたりして、約2時間の交流を楽しみました。

参加した児童は、「フィリピンやアメリカの言葉や生活がよく分かった」「ドキドキしたけど楽しかった」と感想を発表しました。

日雨孫厚子校長は、「外国の方を迎えても物おじしないように、そして外国に対する夢を持ってもらいたい。特に、心と心の交流を深めてほしい」と話していました。